

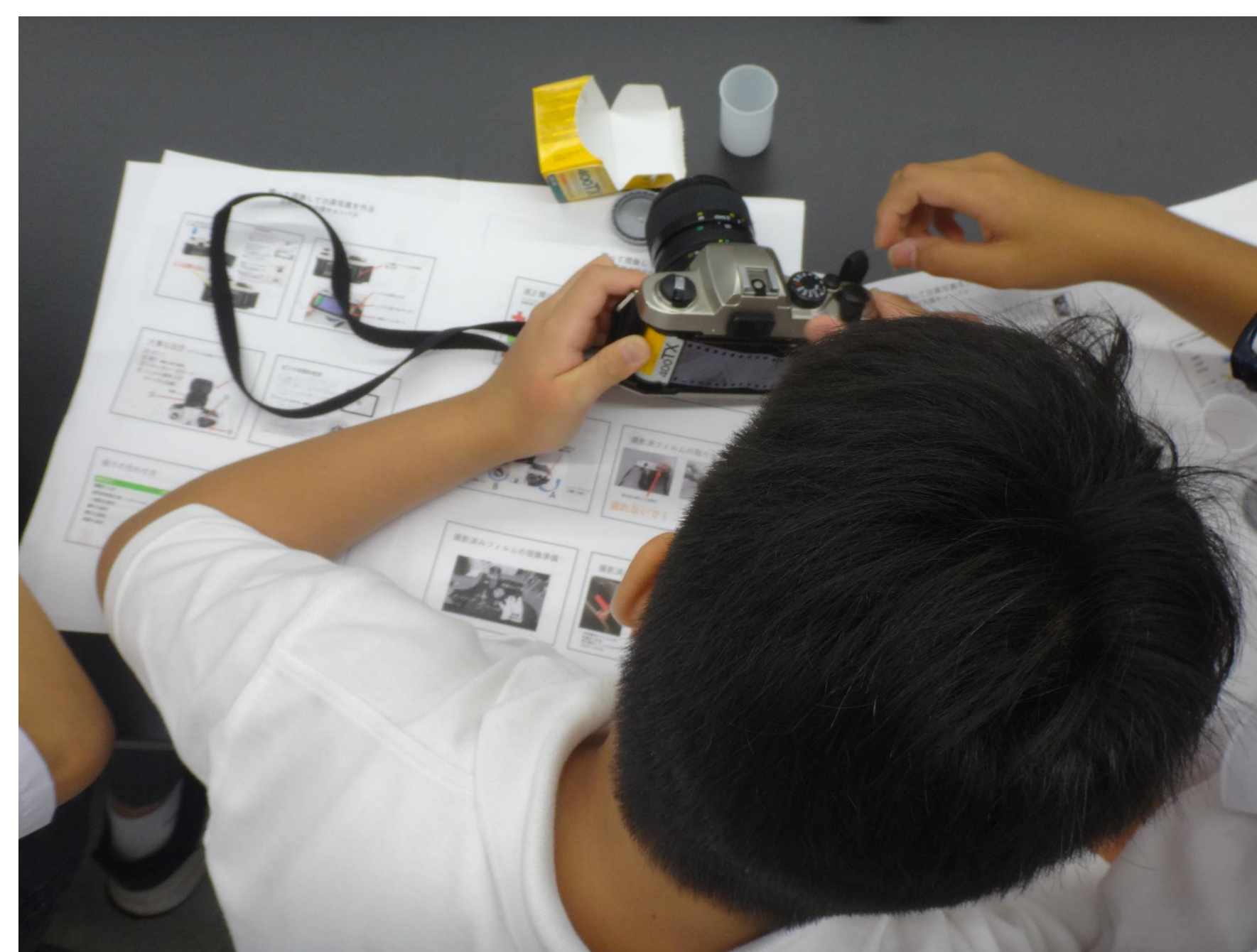
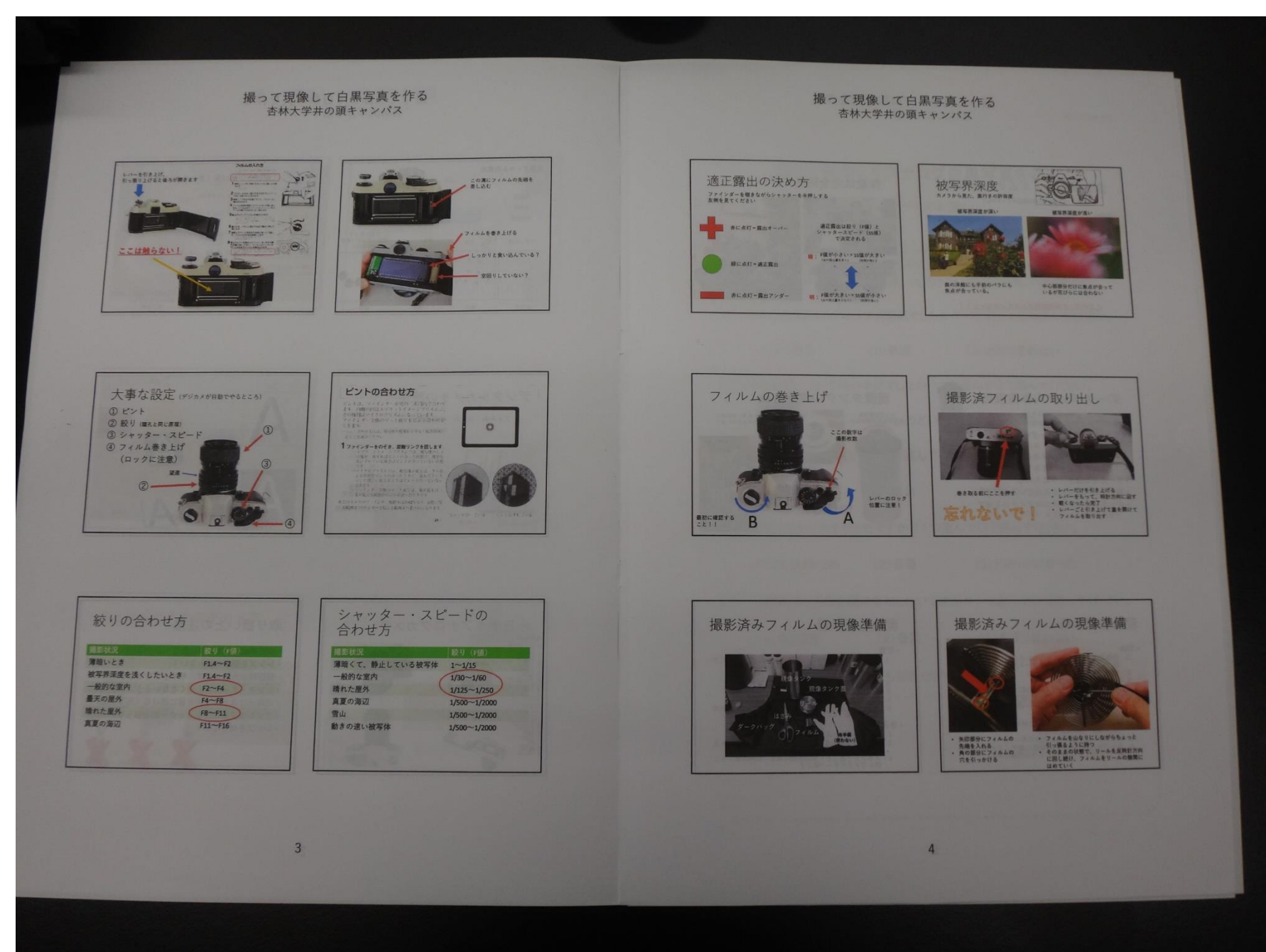
背景・目的

近年はデジタルカメラの普及により、誰でも簡単に綺麗な画像を撮影することが可能である。しかし、画像形成の理論的立場から考えると、カメラの基本構造は極めて似ており、画像形成原理も銀塩フィルムが半導体素子などに置き換わってはいるが、その基本原理に共通する部分は極めて多い。アナログフィルムの画像形成原理、現像・定着といった化学反応によるが、アナログ画像形成等の写真部の生徒を対象に、アナログ一眼レフカメラと白黒フィルムを用いて、全てマニュアル設定による撮影と、手作業による印画紙焼付から手現像処理の全てを自身で行うことで、アナログカメラによる撮影を通して化学にもより深い関心をもってもらえると考え、本企画を計画したが、新型コロナウイルス感染状況を鑑み中止となった。そこで、昨年度の実績を踏まえ、どのような内容になる予定だったかを報告する。

実施予定内容概要

午前

アナログカメラと現像に関する講義



午後

アナログカメラによる撮影と現像の実習



まとめ

アナログ一眼レフカメラと白黒フィルムを用いて、全てマニュアル設定による撮影と、手作業による印画紙焼付から手現像処理の全てを自身で行うことで、アナログカメラによる撮影を通して化学にもより深い関心をもってもらえると考え本企画を計画した。中止は残念だったが、今後も日常と化学が結びつくような内容を企画していく。